

令和7年度 校内研究実施計画書

1 研究主題及び教科

研究主題	自ら考え、学び続ける子の育成 ～ 一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業を通して ～
教科・領域	国語・説明的な文章

2 研究主題設定の理由と研究の概要

(1) 研究主題設定の理由

ア 学校教育目標と児童の実態について

本校では、学校教育目標「自ら学び、ともに生きる社会をつくろうとすることの育成」のもと、「自分・友だち・学校・地域を大切に作る心を育む学校」「自ら学び、仲間とともに学習や生活を高め合う力を育む学校」「保護者・地域とともにこどもを育む学校」をめざす学校像とし、日々の教育活動を進めている。

三世代が同居する家庭の児童がいる一方、様々な事情で家庭的に寂しい思いをしながら生活している子、外国にルーツをもつ子など、生活経験や生活背景の異なる多様な児童がともに学習している。児童は、素直で明るく、与えられた問題に対して真面目にこつこつと努力することができる。また、困っている子には手助けができ、周りの仲間に思いやりの気持ちをもって接することができる子も多い。

イ 昨年度の研究について

令和6年度からは、教科・領域を国語科・説明的な文章として、研究主題を「自ら考え、学び続ける子の育成～一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業を通して～」とし、研究を進めた。副主題を「一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業を通して」としたことで、児童が自分の考えを伝え合い、学び合える授業づくりをめざした。説明的な文章に分野を絞って研修を進めたことで、学年間の系統性がわかってきた。その気づきが、系統性を踏まえた指導につながりつつある。また、板書や掲示物を工夫することで本文の内容を読み取るための有効な手立てを講じることができた。自分の考えをもつ時間を十分確保したり、ペア学習やグループ学習を取り入れたりしたことで、児童一人ひとりが自分の考えをもてるようになってきた。しかし、主題にある「学び合い」に関してはまだ達成できていないと言えない。自分の考えを伝えられる児童は増えているものの、「反応しながら聞く」「自分の考えを比べながら聞く」「友だちの考えにつなげ自分の考えを伝える」といった部分に大きな課題が見られた。

ウ 研究主題について

本年度も昨年度と同様に研究主題を「自ら考え、学び続ける子の育成～一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業を通して～」として、国語科を中心に研修を進めていく。主題の「自ら考え、学び続ける子の育成」は、すぐにあきらめてしまい、粘り強く最後まで取り組むことができないという本校の児童の課題をもとに設定した。この力は非認知能力の一つ「やりぬく力」として、今後児童に育てていきたい能力としても注目されている。学校教育目標「自ら学び、ともに社会をつくろうとすることの育成」のもと、主体的に学びに向かい、粘り強く最後まで続けられる児童の育成に取り組んでいく。また、「考えをもっていても、筋道を立てて、自分の言葉でわかりやすく相手に伝えることができない、自分の考えを順序良く表現することができない、友だちの考えと自分の考えを比較しながら聞くことができない」とい

った児童の「話す・聞く力」の改善に取り組むため、副主題は昨年度と同様に「一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業を通して」と設定する。

今年度も、国語科の中から「説明的な文章」に絞って研修を進める。系統性をもった授業を進め、国語の授業スタイルを作っていきたい。そのため、説明的な文章における読み取りの型や、要旨や要点をまとめるための手立て、筆者の主張に対する自分の考えのもたせ方なども研究していきたい。その中で、ペア・グループ活動を取り入れ、伝え合い学び合う場を設定することで、協働的な学習を深めていきたい。全体討議で児童の「わからない」を出発点にそれぞれの考えをつなげたり、自分の考えと相手の考えを比較したりする授業を展開することで児童の考えを深めることができるようにしたい。そして、国語科の研究を通して培った「学びに向かう力」を、教科を超えて学習活動全体へと波及することを意識して研究を進めていきたい。

エ 「学び合う」授業づくり ～本校における学び合いとは～

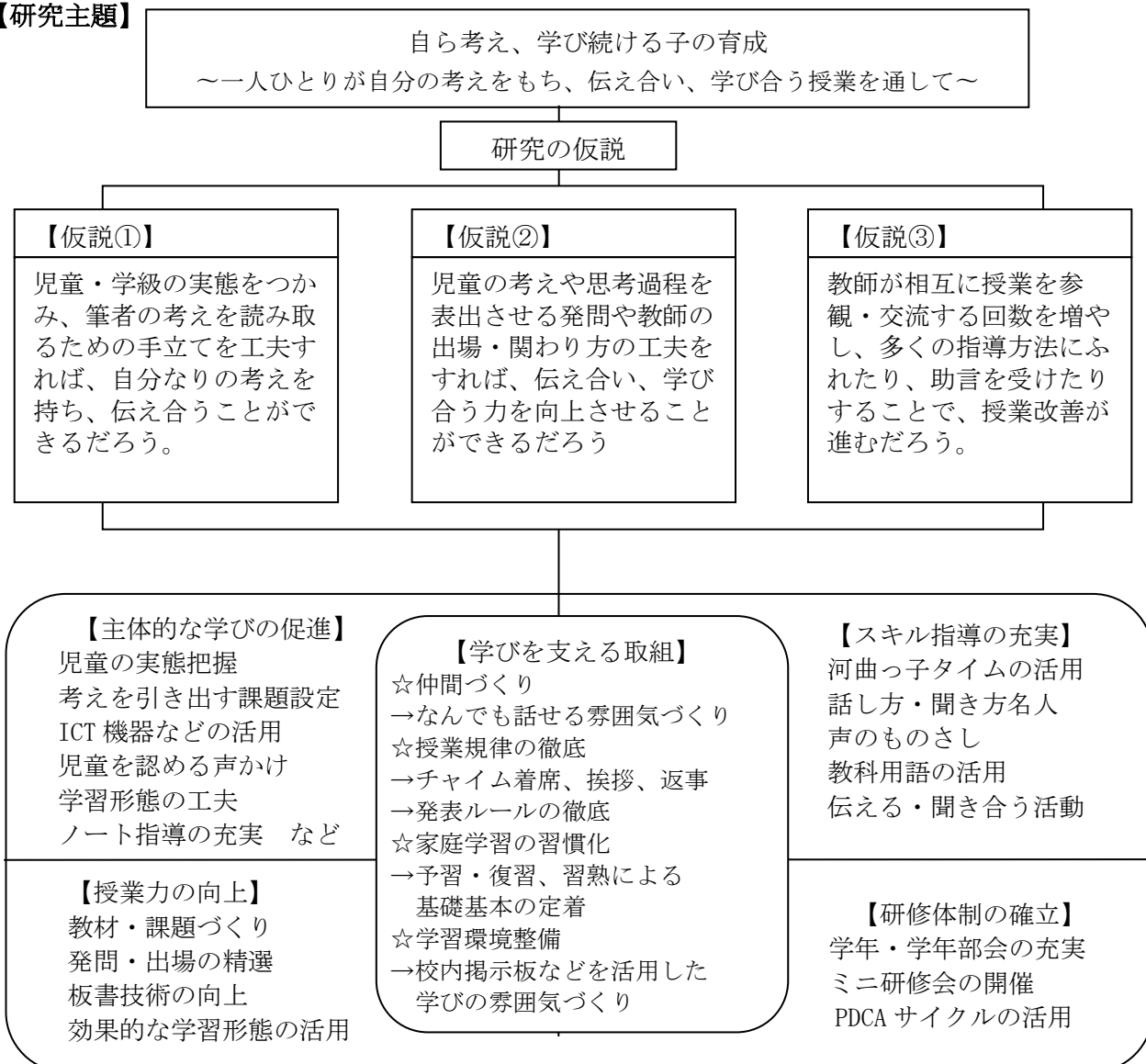
本校における、学び合いの姿を以下のように設定することとする。

児童一人ひとりが、相手の考えを受け入れたり、自分の考えを見直して考えを深めたり、新たな視点で考えて答えや解決への道筋を見出したりするなどの姿

ペア・グループ活動は、どのような目的で、いつ、どれくらいの時間取り入れるのか、考える必要がある。適した場面で活用することで、有効な働きをすると考える。また、相手との関わりの中で、互いの考えを交流し、聞いて考えて伝え合うことで、考えをつくったり考えが広がったり深まったりして、自分や相手の進歩を実感できる授業と考える。

(2) 研究の概要

【研究主題】



(3) 研究仮説について

仮説① 手立ての工夫

児童が能動的に考えを持つためには、授業者の手立ての工夫が有効だと考える。文章を読み取るための手立てを工夫することで、その文章が伝えようとしていることを基にしたり、根拠となる情報を抜き出したりしながら自分の考えをもつことができるだろう。また、ペアやグループでの話し合いの場を取り入れることで、自分の困り感を友だちに伝えたり、友だちの考えを聞いたりするなかで、自分の考えを深められるようにしていきたい。

仮説② 発問や教師の出場・関わり方の工夫（教材との対話、他者との対話、自己との対話）

学び合う力をつけるためには、児童任せの授業や教え込む授業ではなく、児童とともにつくる授業が有効であると考え。国語科においては、教材を読み深めることが重要である。書かれている内容と自分の経験を結び付けることで叙述をもとにした自分の考えをもつことができる。また、授業の関わりや板書の工夫などを通して、一人ひとりの多様な考え方を意図的に引き出したり、児童の考えをつないだりする。その中で、友だちの考えを手がかりに自分の考えを見直したり、課題についての見方を変えたりしながら、統合的・発展的に考える力を高めていきたい。

仮説③ 授業の参観・交流・助言

授業改善を進めるためには、個々の取組意識を向上させる必要がある。また、チーム河曲として「いつでも」「何でも」相談し合える学年部づくりを進め、教材研究や児童理解を多角的な視点で行い、授業を参観する回数を増やし、多くの指導方法にふれあい、自らの支援・指導に活かしていきたい。仲間や外部講師からの具体的な助言や指摘を受け止め、教師自らとしての姿勢を常に問い直し、互いに高め合える教師集団づくりを進めながら、児童の学びを確かなものにしていきたい。

3 研究主題に迫るための重点方策

(1) 聞く力の育成

昨年度の研修の反省から、全学年を通して聞く力に課題があることが分かった。そこで、「伝え合い学び合う学習」の「聞く」という部分に重点を置いて研修を進める。「話し方名人」「聞き方名人」の活用を基本として研修を行う。特に、全学年で統一されている「相手のほうを見て・反応しながら」という部分は、全学年で達成できるように進めていきたい。

《聞く力の目標》

低学年	中学年	高学年
①相手のほうを見る。		②反応する。
③相手の考えに対して感想を伝える。	④質問しながら聞く。 ⑤相手の考えに対して自分の考えをもつ。	⑥要点を捉える。 ⑦比較しながら聞く。 ⑧考えをまとめる。

※小学校学習指導要領をもとに作成。

※聞く力の目標ではあるが、検証を行うため話す・書くの内容を含んだ表現になっている。

(2) 学びを支える言葉の力の育成（語彙・用語）

昨年度からの反省にもあるように、河曲小学校の児童には語彙力の少なさに課題がある。そこで、国語の教科書の付録に掲載されている「言葉の宝箱」を印刷して児童に配付する。該当学年よりも下の学年の「言葉の宝箱」も確認することができるため、児童にとって語彙の蓄積を実感することができる。意味調べをして活用方法を調べたり、日記や作文で使ったりすることで、児童の語彙を増やしていきたい。また、読書量を増やしたり、図書の貸し出し冊数を増やしたりする取組を行い、児童の言葉の力の育成につなげる。

4 研究の方法・計画

(1) 一人ひとりが自分の考えをもち、伝え合い、学び合う授業についての研究（国語科）

研究授業を中心に進める

○全体研修会 低・中・高学年で（全3回）、事前事後の検討会をもつこととする。

(2) 研究授業について

- ・国語科を研修の中心教科に据え研修を深める（系統的な指導・学力の向上に繋げる授業）
- ・国語3本、人権3本の計6本の公開授業
- ・指導主事の先生を可能な限り招聘する。
- ・公開前に、指導案検討会を行う。指導案検討会では、教員に児童役として参加してもらう模擬授業を行ったり、単元のゴールとなる言語活動を行ってみたりすることで、単元構想の周知を図ったり、指導案の検討をしたりする。学年の取組などについての説明を受け、児童の実態、授業のねらい、児童につけたい力などについて共通理解を深め、授業の参観に臨むこととする。
- ・指導案の形式を統一し、授業展開等共通性をもたせる。（国語科）

(3) 校内研修会について

原則第4水曜日を校内研修の日と設定し、年間を通して国語科の授業研究及び今日的な教育課題の解決へ向けた校内の研修を実施していくこととする。研究授業の開催日等については、授業提案学年の意思を第一に考え、水曜日以外の日程においても授業日を設定することとする。尚、水曜日以外の日程で研究授業が実施される場合は、その日を水曜日課の5限授業日と設定し、放課後に事後検討会を実施する。

また今年度も昨年度に引き続き、校内研修とは別枠でミニ研修会を実施していく。研修内容は、国語科に限らず、教職員の授業力・指導力向上につながる内容とし、学級経営に関するもの、特別支援教育に関する内容等、幅広く取り扱うものとする。

5 学習の基盤となる力を育む取組

(1) 話し方名人・聞き方名人の活用

児童の課題である「筋道を立てて、自分の言葉でわかりやすく相手に伝えられない」、「自分の考えを順序良く表現することができない」、「友だちの考えと自分の考えを比較しながら聞くことができない」といった課題を改善するために、今年度も話し方名人・聞き方名人を活用して授業を進める。

聞き手を意識し声の大きさや体の向きを変えて話すことは、低学年から意識づけさせたい。また、中学年以降は、理由からではなく結論から話すように指導をしていく。相手に伝わりやすい話し方の順序を意識させたい。

聞き方においては、必ず反応することを低学年から意識づけさせる。みんなの意見が受けとめられる学級づくりを大切にしていきたい。中学年・高学年では、自分の意見と比べながら聞いたり、相手の意見の要点をおさえたりすることを指導していく。

	話し方名人	聞き方名人
低学年	1. 3のこえで 2. きくひとにからだをむけて 3. さいごまではっきりと	1. しずかに 2. はなすひとのかおをみて 3. はんのうして 4. さいごまで
中学年	1. 聞こえる声で 2. 聞く人に体を向けて 3. 結論を先に 4. 最後まではっきりと	1. よいしせいで 2. 話す人を見て 3. 反応して 4. 自分の考えとくらべて
高学年	1. 聞こえる声で はっきりと 2. 聞く人に体を向けて 3. 結論を先に 4. 友達の考えにつなげて	1. 話す人を見て 2. 反応して 3. 話す人の要点をとらえて 4. 自分の考えと比べて

(2) 言葉の宝箱の活用

児童の表現が、限られた言葉ではなく、多様な語彙を用いたものになるように指導を進める。また、聞き手には言葉や表現を的確に受け取る力を育む必要がある。そのために、日常のコミュニケーション、言語活動をささえる語彙、思考を進めるために必要な用語や方法の指導を進める。あわせて、児童が表現する場を積極的に取り入れ、児童の言葉の力、表現する力を育む。「言葉の宝箱」に記載されている様子を表す言葉など、日記や作文の指導等の中で活用していきたい。

(3) 読書活動の充実

ア 本に親しみ、読書への関心を高める取組

- ・読書ポイントカード
- ・「先生のおすすめ本の紹介」
- ・地域ボランティアによる読み聞かせ（低学年は毎週実施）
- ・子ども新聞の活用
- ・読書の幅を広げる指導

イ 魅力ある図書館運営

- ・巡回指導員による図書館の指導、読み聞かせ、ブックトークの実施により、読書への意欲・関心を高めさせるとともに、図書館利用を促す。
- ・日本語以外の言語でかかれた本の紹介（多文化理解）（日本語との比較→英語教育との関連）

(4) ノート指導や板書の方法について

ノート指導や板書の方法など、授業づくりの土台を共有し研究を進めていきたい。土台を共有して授業づくりを進めることで、学年や指導者が変わることによる児童への不安や負担を軽減することが期待できる。また、指導者の立場としても毎年、初期指導をする時間を短縮できる。国語科におけるノート指導として下記のノートを基本とする。

四月十五日(月)	〇〇〇(題名)
単元のめあて	くどう なおこ
④どのように音読するかをかんがえよう。	
「ルウ」は「ノノン」は言う「すてきなにおい」が気になるけれど、おなかもすいていたから、ついていくかどうか、少しまよっていたんだと思う。	
⑤登場人物のしたことが分かる言葉を見つけて、大切だと思った。	

自分の考えと、その理由が分かるように書く。

題名・単元のめあては、第1時の授業だけ書く。

6 年間研修計画

一 学 期	4月 3日 (木)	ミニ研修会①	学級開きについて
	4月 9日 (水)	ミニ研修会②	アレルギー・てんかん発作対応について
	4月11日 (金)	第1回校内研修会	校内研修で大切にしたいこと・言葉の宝箱について・研究主題の設定と研修の方向性について
	4月23日 (水)	第2回校内研修会	授業力の向上・研究授業事後検討会について
	5月16日 (金)	第3回校内研修会	学調・みえスタの採点
	6月25日 (水)	第4回校内研修会	研究授業3年1組国語
	7月23日 (水)	第5回校内研修会	学調・みえスタの分析の還流・授業改善について
二 学 期	9月24日 (水)	第6回校内研修会	人権教育公開授業に向けて
	10月22日 (水)	第7回校内研修会	研究授業5年1組国語
	11月12日 (水)	神戸中学校区人権教育公開授業	
	2学期中	研究授業特別支援学級	生活単元学習
三 学 期	1月30日 (金)	第8回校内研修会	研究授業1年1組国語
	2月25日 (水)	第9回校内研修会	研修のまとめ 来年度へ向けて